

<指導教員や参加学生の感想>

◎ノーゴールド先生(ストックホルム大学)

特に今はこうした非常事態の最中で、快く応じてくださって、感謝するばかりです。学生さんの感想もすぐにまとめて送ってくださってありがとうございました。感想を拝見すると、やはり日本とスウェーデンの考え方の違いに驚いた学生さんが多いようです。こうした交流をすると、日本、そしてスウェーデンの社会では当たり前、当然とされている考え方が、全然普通ではなかったりするので、お互いに新たな気づきを得られる機会になったのではないかと思います。特に、今はコロナ問題のせいで、人との交流、移動や旅行が難しい時期ですからこうした交流はより有意義な機会となったのではと感じます。今後も学生同士の交流が続くかもしれませんね。

1人の学生は、本来なら今年の3月から名古屋に留学予定で非常に楽しみにしていたのですが、コロナ問題で留学がキャンセルになってしまい、少し落ち込んでいただけに、今回こうして先生の学生さんと仲良くなれて、とても嬉しそうでした

◎小川教授(本学の授業担当者)

特に大学1年生で、コロナで1日も通学もできずに授業を受ける中で、遠くのストックホルムとつながるという、貴重な体験をさせていただきました。ストックホルム大学の学生たちの日本語でのコミュニケーション力の正確さと豊かさに感動した、印象的な時間になったことと思います。

◎オンライン授業を受けた学生たちの感想

A)ストックホルム大学のたくさんの学生と交流し、結婚観について話し合うことはとても有意義な時間でした。

初めはとても緊張していましたが、話しているうちに緊張はとけ積極的に会話ができました。

スウェーデンと日本の結婚観は 180 度違うといっても過言ではないものでした。スウェーデンは婚外子が普通で、日本ではまだ婚外子というあまり受け入れられないのが現状です。

私はこの話し合いを通して、日本もスウェーデンのように結婚に関して自由になり、生きやすい国になっていくべきだと思いました。

日本語教育の観点では、日本語を教えるためには簡単に説明することが第一であるということがわかりました。体を使って、文字を打って、という様々な方法を使って理解してもらうことがとても重要です。

しかし、ストックホルム大学の皆さんは日本語がとても上手でびっくりしました。

私は、外国人に日本語を教えてみたいという興味がまた増しました。

本日の話し合いはとても楽しかったです。

B)本当に楽しかったし、心の底から良い経験をする事ができて嬉しい気持ちでいっぱいです。

日本語教育の観点から気づいた点は、日本語はほとんどの学生が自分から相槌を打って話を聞いて、話を引き出して質問していたのですが、自然な日本語ではなかったなと思いました。

もちろん限界があるし、英語を勉強している私たちも英語を話す人からすると不自然な部分があると聞いたことがあるので、その感覚を感じる事ができたので理解する事ができました。

また、ほとんどの学生が日本語は話すことが難しく大変だけれど、楽しいし、漫画を読んでもいいなどの目標をそれぞれが持っていて、この思いを持った日本語話者ではない人と交流したいと思いました。自然な日本語を教えることができることが正しいことではないけれど、もっと楽しく学ぶことができる環境を整えていくことができる人になりたいと思いました。

C)今日はストックホルム大学とのディスカッションができてとても良かったです。主に結婚観についてのディスカッションでしたが、やはり日本の学生とは考え方が異なる部分が多くありました。

特に、『結婚願望はあるか?』という質問をお互いにかわしましたが、私たちは全員一致で結婚したいという答えなのに対してストックホルム大学の生徒さんたちは結婚したくないという意見が多くありました。

理由としては結婚する必要性を感じないとか、愛さえあれば結婚しなくても大丈夫ということでした。この質問に対して女性の学生はまだわからないなど不確定な回答が多かったですが、男性の学生は比較的はっきりと結婚したくないと言っていたので男女間の考え方の違いを実感しました。

日本語教育に関しては、とてもいいなと思いました。日本語を勉強してどれぐらいかを聞くと2年やそれよりも少ない人もいました。ですが皆さんとても日本語が上手でスピーキングもリスニングもこちらは何も困ることはありませんでした。日本語を学びたいと思ったきっかけは人それぞれならば良かったことを踏まえると、おそらく日本語はその分沢山の入り口があるのだと思いました。

これからさらに日本語を勉強する人が増えた時、日本語を使う日本人としてしっかりと日本語教育について学びたいと思いました。”